

松五 奥の細道 ノート 問題

問一 「おくのほそ道」のジャンルは何か。

問二 一般的な旅と芭蕉の旅の違いは何か。

「一般的な旅はくだが、芭蕉の旅はくという違い」という形で書きなさい。

問三 「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」は芭蕉の最期の句であるが、このような句のことを何というか。また、この句の季語と季節を答えなさい。

「旅立ち」について

問四 この文章には対句が三カ所に使われている。それはどこか。

①

②

③

問五 「草の戸も住み替わる代ぞ雛の家」の切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えよ。

問六 「行く春や鳥啼き魚の目は泪」の切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えよ。

問七 「春立てる霞の空に」と「松島の月まづ心にかかりて」の部分には掛詞（11一つの

言葉に二つの意味を持たせる言葉）が使われている。それぞれのどのような意味で使われているかを答えなさい。

「春立てる霞の空に」①

②

「松島の月まづ心にかかりて」①

②

問八 この文章の中の芭蕉の人生観を示す部分を五字で抜き出しなさい。

「平泉」について

問九 「三代の栄耀」の三代とは具体的にどのような人たちのことか。三人の名前を答えなさい。

問十 「高館」はだれが住んでいたところか。

問十一 「衣川」や「衣が関」は和歌で詠まれる有名な地名のことだが、このような地名のことを何と言いますか。

問十二 「国破れて草青みたり。」はある有名な漢詩の引用である。その漢詩の題名と作者、またその作者が別名でなんと呼ばれていたかも答えなさい。

問十三 「夏草や兵どもが夢の跡」の句について、切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えなさい。

「立石寺」について

問十四 「清閑の地」とはどんなところか。

問十五 「立石寺」と同じものを表す語を文章中から五字で書き抜きなさい。

問十六 この文章中から対句を二つ書き抜きなさい。

①

問十七 「佳景寂寞として心澄みゆくのみおぼゆ。」を口語訳しなさい。

問十八 「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」について、切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えなさい。

問十九 「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」という伊勢の二見浦へと向かうため、大垣を出発

する際によまれた句である。

(1) 切れ字・句切れ・季語・季節を答えなさい。

(2) 「ふたみ」の部分は「二見浦」という地名のほかにもう一つの意味があるが、その意味を答えなさい。